

ぶ(霊水と共に

令和六年を振り返り

「激動の時代」とは、社会情勢や環境が常に変化し、今までの価値観が大きく変化する時代を表す言葉です。歴史をひも解くと、変化のない時代はありませんが、とにかく昨今の変化のスピードがとてつもなく早いことは間違いありません。これらの変化は、「ブーカの時代(変動・不確実・複雑・曖昧)」と表され、人々は、変化についていけるかどうかへの不安を抱えています。しかし、いくら時代や社会が変わっても、変わらないものは、お釈迦様の教えです。

お釈迦様は、ご入滅の折、不安がる弟子たちに「私の死後は、自分自身を抛り所とし、私の教えを抛り所としなさい」という言葉を残されました。この最後の教えは、「自燈明・法燈明」と呼ばれています。悩みや苦しみの暗闇を進む時、「自分自身と仏の教えを灯りとして進みなさい」ということです。



発行 法華寺
No.28
2025.1
河南町加納 247
☎0721933023

自分を抛り所とする

自分には、苦難を乗り越える自信がない、という方もおられるかもしれません。しかし、「法華経」の根本は「全ての人の心の中には悟りの蓮の種が存在し、そのことに気づいてその種を発芽させ、レンコンを大きくし煩惱の泥の中から美しい蓮の花を咲かせることができる」という教えです。

私が住職を拝命してから約七年、時代や状況に合わせて諸々変更したこともありましたが、根本は自ら信じる神仏を抛り所にしてまいりました。今後も「お参りして良かったと感じていただけると寺」に少しでも近づけるように、努力したいと思っております。

私は、毎日、朝の勤行の後、回廊に腰をかけ、目の前の境内、草花樹木、山門越しに見える山並みを眺めています。
この時が、私の蓮の種が育つ時間です。



早朝の境内

まいてら法華寺

検索

寄り添いの寺 法華寺

検索

昨年十月の

御会式法要の様子です。



動画 QR コード

全てのご尊像がそろいました

昨年、十月の本堂ご開帳を経て、十一月に「大黒天神」「蔵王権現」両ご尊像を番神堂にお戻しし、二年半の修復事業が全て終わりました。お堂は「威光倍增、法楽莊嚴(いこうばいぞう、ほうらくしようごん)」の通り、ますますご威光を輝かされ、唱える法華経を受け、悦ばれてすばらしいお姿を顕わされています。檀信徒の皆様も、是非お参り下さり、諸尊の慈悲をお受けください。



甦生 三十番神堂内部